

全国一斉書き初め大会(試行事業)

お正月を遊びつくせ！書き初めキャンプ



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

書き初めや凧揚げ・かるた遊びといった正月の文化、風習に触れ、日本の伝統についての関心を深める。

○ 実施期間

令和4年1月8日(土)～9日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

徳島県南部～高知県在住小学生4～6年生 27名/30名

○ 活動プログラム

1月8日(土)	1月9日(日)
9:00 送迎バス 出発	6:30 起床・清掃
12:00 開講式	7:30 朝のつどい
12:20 昼食(食堂食)	7:45 朝食(食堂食)
13:20 アイスブレイク	退所点検
14:00 凧作りと凧揚げ	9:00 書き初め会
16:00 昔遊びラリー	10:30 巨大年賀状作成
17:00 タベのつどい	12:00 昼食(食堂食)
17:15 夕食～正月料理を食すぜよ	13:10 閉講式
19:00 落款を篆刻しよう	13:30 送迎バス 出発
21:00 入浴・就寝準備	
22:00 消灯・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

高知県内の4～6年生27名が参加した。大学生ボランティアリーダーによる自主企画であり、その運営のほとんどをリーダー5名が行った。昼食後、アイスブレイクをしたのち、班に分かれて凧作りを行った。初対面でお互い緊張していたが、時間の経過とともに協力して制作する様子が伺えた。グラウンドで凧揚げを行った。風が弱く、凧を高く上げるのには苦戦したが、参加者全員一生懸命走り、より高く上げようと競い合っていた。その後、6つの昔遊び(コマ回し・お手玉・けん玉・ダルマ落とし・折り紙・竹馬)を体験した。予想以上に盛り上がり、時間を忘れて熱中していた。夕食は、お正月料理(特別食)を堪能した。食堂の店長さんから、地元の食材や伝統の調理方法について説明があり、関心が高まる様子が伺えた。夜は、消しゴムハンコ作りを行った。なかなか

か思うようにいかず、戸惑う場面も見られたが、班員で相談したり、ボランティアリーダーや職員
のアドバイスを受けながら全員作成できた。



<2日目>

朝のつどいには、全員元気に参加した。その表情からは、昨日の満足感とともに、本日のプログラムへの期待感と、仲間づくり（リーダー含む）がうまくいっていると感じることが出来た。書き初め大会では、半紙で練習した後、色紙に清書して、昨日作成した消しゴムハンコを押印して完成させた。それぞれが創意工夫し、思いの詰まった作品となった。巨大年賀状作成では、班員がそれぞれの意見を出し合い、相談し、構成を考えた。意見のぶつかりもありながら、譲り合い、調整していく中で、それぞれの班で素晴らしい作品を作り上げた。ボランティアリーダーの発案で、鮮やかな色彩の霧吹きを用い、それぞれの作品にさらなる魅力を加えた。巨大年賀状と一緒に撮った集合写真は、後日、参加者全員に年賀状として送付した。参加者はもちろん、保護者からも御礼をいただき、改めて参加者の思い出に残る事業になったことを実感できた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想 アンケートの満足度は100%

- ・昔遊びが体験できてよかった。
- ・凧揚げが楽しかった。
- ・巨大年賀状制作がみんなと協力出来て楽しかった。など

今回の事業において、27名中19名が過去に室戸自然の家の事業に参加したことがあり、アンケートの中には、「何回来てもいつも楽しい」という内容がたくさんあった。これまでの事業の内容やボランティアとのかかわりに対して高評価されていることを誇りに思う。なお一層精進したい。

○ 事業の成果

- ・「書き初め」に精通している職員がおらず、戸惑いはあったが、外部（ボランティアリーダー）の連携することで、良い事業になった。
- ・「書き初め」に限定するだけでなく、正月遊びや、正月料理をテーマとして事業に組み込むことでより充実した内容になった。

○ 事業の課題

- ・日程について、参加希望は33名であったが、コロナ禍における学校行事や部活動の大会の変更で、不参加を余儀なくされたものがいた。冬休みの日程を考慮して計画する必要がある。
- ・今回は、ボランティアリーダーの中に、書道に精通した人材がいたので事業が成立したが、その他の場面でも外部の人材（地域の人など）を活用すれば、さらなる事業の発展が期待できる。昔遊びに地元の人に参加を呼び掛ける、書道に関しても高校（大学）の書道部や、地域の指導者と連携するなど、地域を巻き込んだ事業を展開できるよう計画していきたい。